

平成29年度

学校自己評価書

学校関係者評価書



■ 学校自己評価書（学校関係者評価を含む）

重点目標

- I 児童一人一人の個性や能力を引き出し、伸ばし、見届ける教育の推進を通して、『確かな学びの力』の基礎を養う。
- II 児童一人一人に豊かな人間性を育てる心の教育の推進を通して、『確かな心の力』の基礎を養う。
- III 基礎的な運動技能・能力を高め、運動に親しませる教育の推進を通して、『確かな体の力』の基礎を養う。
- IV 児童一人一人がよき町民となるよう、将来にわたって社会性を身に付ける教育を通して、『日常生活の力』の基礎を養う。

木城町立木城小学校

＜学力向上＞

〔４段階評価〕 ４：大変よい ３：概ねよい ２：やや改善を要する １：改善を要する

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価	関係者評価	結果の考察・分析 及び改善策等 【○ 関係者コメント】
【重点目標】 ○ 児童一人一人の個性や能力を引き出し、伸ばし、見届ける教育の推進を通して、『確かな学びの力』の基礎を養う。						
学力向上	学習意欲を高める。	月目標に則し、学習訓練の徹底、学習態度の育成に係る指導を毎日実施する。 毎次（そのつど）具体物、半具体物の活用、操作活動を取り入れることを目指す。	立腰指導をはじめ、木城小スタンダード「学びの約束」の共通実践に当たる。 発問や板書を工夫するとともに、具体物の活用や操作活動を取り入れる。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 学習態度の育成に係る姿勢指導については、学校の重点課題ととらえ、立腰指導を継続している。 多くの学級でプロジェクターの活用が図られ、デジタル教科書を中心とした視覚に訴える学習指導が定着しつつある。
	基礎学力を定着させる。	当該学年の漢字 <u>100%習得の児童8割</u> を目指す。 当該学年の計算 <u>100%習得の児童8割</u> を目指す。 当該学年の学習内容の定着（単元テスト平均目標値 <u>80～90点</u> ）を目指す。 まちがしやすい問題（学級の児童のうち3～5割が誤答の問題）は <u>毎次</u> 解説する。	活用問題対策を含めた「ぐんぐんタイム」を計画的に実施する。 基礎・基本の定着に向け、漢字力・計算力を高める。 町学力向上サポーターを活用した算数科の少人数指導を効果的に進める。 授業改善の視点に基づいた授業構想に努める。			<ul style="list-style-type: none"> 算数科のWeb評価問題に加え、これまでに整備した国語科のB問題への取組も含めた「ぐんぐんタイム」の確実な実施と、学年間の共通実践に努めている。 少人数指導推進教員による実態把握とデータ管理の一元化を図り、学力の底上げを目指している。 昨年度に引き続き、支援校訪問を受けながら「授業改善の4つの視点」を踏まえた授業づくりに力を入れてきた。今年度は、一人2回の研究授業とフィードバックにより、授業改善に向けた実践的な研修を深めることができた。 ○ 習熟度別による学力向上サポーター活用の効果が出ている。
	学力調査等の目標値を達成する。	CRT・NRTは全国平均値から上 <u>1～5点</u> の範囲を目指す。 みやざき学力調査、全国学力調査は、A問題・B問題それぞれ <u>全国平均値</u> を目指す。	全国・県学力調査の結果を踏まえた過去問への取組を通して、活用する力の向上に向けた学年の取組を充実させる。			<ul style="list-style-type: none"> 2・3年で実施したNRTは、目標を達成した。 全国（6年）・県（4・5年）学力調査の結果を真摯に受け止め、今後の具体的な対応策を協議するとともに、学年での共通実践に当たった。 1年間の指導の成果を見るためのCRTを、全校児童を対象に第3学期に実施した。 ○ 恵まれた学校施設や教育環境を最大限に生かした学力向上に向けた取組に対しては、一定の評価ができる。今後も4・5年の学力調査結果を基に、共通の課題解決に取り組む必要がある。 ○ 補充指導の在り方を検討し、質の向上につなげたい。

		発展問題、探究学習に挑戦させる。	各教科で出てくる表やグラフの読み取りのポイントを <u>毎次解説</u> する。	表やグラフから読み取った自分の考えや意見を文にまとめ、相互に発表し合う活動を通して、学び合いながら理解を深める手立てをとる。		<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びの場はもとより、協働的な学びの場も設定し、ペアやグループでの活動を取り入れている。 学級全体での学び合いの場を充実させたい。
		伝える力、まとめる力を育てる。	ノート展に出せるレベルの「ノート力」を身に付けた <u>児童50%</u> を目指す。	第3学期の参観日に合わせ、1週間ノート展を実施する。		<ul style="list-style-type: none"> ノート展を実施し、選定されたノートのよさに触れさせる。 家庭学習ノート及び授業中のノート指導に力を入れている。 ノート以外にも新聞づくり等でまとめ方を学んでいる。
	読書指導	読書の習慣化を図る。	読書目標を達成する。 (読書冊数： <u>低学年月10冊</u> ， <u>中学年月7冊</u> ， <u>高学年月5冊</u> を目指す) (ファミリー読書目標時間： <u>週当たり100分</u> を目指す)	学年部ごとに設定した読書冊数の目標達成に向け、働きかけを継続する。 家読（うちどく）を奨励し、家庭読書の習慣化を図る。	3	<ul style="list-style-type: none"> 多読賞の基準を設け、月当たり低10冊・中7冊・高5冊を学年部の目標にして読書を促している。 1月末現在での学校図書利用総冊数は、15948冊であり、児童一人当たりの貸出冊数は、計52.8冊（5.9冊/月）となった。 学校司書の取組による効果も大きい。 ○ 児童が選んで手に取る本の質を向上させることで、読解力の向上や算数の学力向上にもつながるのではないかな。 ○ 読書の質・量共に向上しているのので、今後も更なる読書習慣づくりに努めてほしい。 ○ 興味・関心のみを優先させるのではなく、ストーリー性のある読み物も与えたい。
	家庭学習	家庭学習の充実を図る。	適切な課題で学習時間の確保を目指す。 (<u>低学年45～60分</u> ， <u>中学年60～75分</u> ， <u>高学年75～90分</u>) 見届けをする家庭 <u>100%</u> を目指す。	学習内容の定着を図るための適切な課題を与える。 家庭学習時間の確保に努める。 家庭学習内容の点検・見届けをしてもらうよう保護者への働きかけを継続する。	3	<ul style="list-style-type: none"> 12月末の「家庭学習習慣の定着」に関する児童アンケートの結果からは91%、保護者アンケートの結果からは75%の肯定的回答が得られた。児童と保護者で若干の意識のずれが見られたことから児童の自己評価の甘さがうかがえる。 小中連携教育研究会において、児童生徒用家庭学習の手引を作成し、全家庭に配付した。 参観日の懇談会や通信等を活用して、家庭学習の見届けを継続的に働きかけたり、保護者からの返信等も活用して双方向のやり取りを行ったりしている。 ○ 宿題の質・量について、学年の発達の段階に応じて協議し、整理する必要がある。

＜心の教育＞

〔４段階評価〕 ４：大変よい ３：概ねよい ２：やや改善を要する １：改善を要する

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価	関係者評価	結果の考察・分析及び改善策等 【○ 関係者コメント】
【重点目標】 ○ 児童一人一人に豊かな人間性を育てる心の教育の推進を通して、『確かな心の力』の基礎を養う。						
心の教育	心を豊かにする教育環境	豊かな心を育てる。 花や野菜の栽培・収穫において、 <u>年間１回</u> の児童による学級園への植栽を目指す。 道徳の時間、学級活動（各年間 <u>３５時間</u> の授業時数の完全実施を目指す）を通して、優しく思いやりのある寛容で豊かな心を育てる。	体験活動を重視し、時代に即した道徳教育を計画的に推進する。 様々な体験（栽培活動）や、学習経験（道徳の時間・学級活動等）を充実させる。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 平成３０年度より導入される「道徳科」の実施に向け、年間指導計画を整備する必要がある。 町教委主催の道徳教育研修会を受け、「道徳科」の授業づくりを目指す授業研究会を実施したことで、今後の授業改善に向けた協議を深めることができた。 ○ 道徳科の研究もなされ、次年度の準備がなされている。 ・ 無言清掃は、ほぼできるようになってきた。班長を中心に進めている反省会の在り方を見直し、質を高める必要がある。 ○ 清掃もほぼ行き届いている。 ・ 生活文や読書感想文・画コンクールをはじめ、各種作品展へ多くの児童が入選した。
		教室の整理・整頓やちり拾いを日に <u>最低１回</u> 適時行うことを目指す。 清掃についての重点指導事項を確認し、指導を徹底する。	日頃から普通教室や特別教室等の整理整頓に努め、教育環境を整える。 児童一人一人に、清掃場所でのチャイム黙想と無言清掃を徹底する。			
		音楽（歌）のある環境づくりや、児童の作品（絵・作文・詩・俳句）を常時掲示するよう努める。 作品募集、コンクール等に積極的に参加し、各学級年間で <u>絵の部門で１点、作文の部門で１点</u> 入選することを目指す。	音楽（歌）のある環境、児童の作品（絵・作文・詩・俳句）、各種掲示物が常に掲示された教育環境づくりに努めることを通して、美しいものを感じ取る感性を育てる。			
	基本的な生活習慣	あいさつ・返事を中心に指導を徹底する。	基本的な生活習慣を身に付けさせる指導を継続する。	3		<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつは、児童の声にやや元気がない。 ・ １２月末の「あいさつの習慣化」に関する児童アンケートの結果からは９１％、保護者アンケートの結果からは７４％の肯定的回答が得られた。ここでも、児童と保護者で若干の意識のずれが見られたことから「家庭学習の習慣化」同様児童の自己評価の甘さがうかがえる。 ・ 中学校へのつながりも視野

					<p>に入れ、全校で集まる場においても、元気な返事をさせるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童一人一人が元気な声であいさつをしている様子がうかがえる。 ○ あいさつについては、校内では積極的であるが、校外ではやや消極的である。家庭や地域社会で大人が手本となるような関わりが不十分に感じられる。 ○ 木城っ子安全守る隊・応援隊をはじめ、大人と顔見知りになることで、児童の朝のあいさつの声は大きくなる。帰り道でも大人が手本になることが大切。
生徒指導	<p>社会性を育てる。</p>	<p>集団活動を通して、規範意識をもち、友達と協力しながら助け合う<u>学級</u>をつくる。</p> <p>集団活動を通して、リーダー（<u>学級男女各2～3名</u>）を育成することを目指す。</p> <p>何事にも進んで取り組み、一人一人自分のよさや特長を出そうとする態度や行動力の見られる<u>学級</u>をつくる。</p> <p>学級活動の話し合い活動を通して、学校や学級生活をテーマとして課題解決を図る。 (学期1テーマを目標に年間3テーマの課題解決を目指す。)</p>	<p>木城小スタンダード「生活の約束」の共通実践を通して規範意識を育てるとともに、協力して助け合う態度を育てる。</p> <p>集団活動を通して、学年の発達の段階に応じたリーダー的資質を伸ばす。</p> <p>話し合い活動を通して、学校生活の課題解決につなげられるよう指導する。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12月末の「生活のきまりや約束の順守」に関する児童アンケートの結果からは92%、保護者アンケートの結果からは73%の肯定的回答が得られた。児童と保護者の意識のずれに、これまでの項目同様の傾向が見られる。 ・ 長期休業中に、学級活動における話し合い活動の在り方について研修した。その成果を、各学級の課題解決に向けた話し合い活動の充実に生かしている。
自主的・自立的活動	<p>自主的・自立的力を育てる。</p>	<p>委員会、代表委員会、児童会集会、係など<u>全児童</u>が進んで取り組める活動を目指す。 (低・中学年は一人一人が係をもてるようにし、高学年の活動に繋げる。)</p>	<p>自ら計画を立て、自分たちの問題として考え、自ら行動できる仕組みを整える。</p> <p>一日の落ち着いたスタートを切るための児童の自主的な活動として、登校後の静かな読書及び「月の歌」の歌唱への働きかけを継続する。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ トイレのスリッパ並べを定着させるための手立てについては、代表委員会における議題に取り上げたことで、児童による具体策が打ち出され、全校での取組につながった。 ・ 毎朝「月の歌」を歌う時間を設定したことで、全校児童による美しい歌声が聞かれるようになってきた。また、スムーズな1日のスタートを切ることもできるようになってきた。 ・ 時間を守ることへの意識も芽生えてきた。

＜体力向上＞

〔４段階評価〕 ４：大変よい ３：概ねよい ２：やや改善を要する １：改善を要する

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価	関係者評価	結果の考察・分析及び改善策等 【○ 関係者コメント】
【重点目標】 ○ 基礎的な運動技能・能力を高め、運動に親しませる教育の推進を通して、『確かな体の力』の基礎を養う。						
体力向上	体力づくり	体育の時間の導入時に毎時サーキットトレーニングやなわとび、持久走など体力づくりのための基本運動を取り入れる。	教科体育の充実を図り、授業の始めに工夫した強化運動を取り入れる。 体力向上月間を設定し、なわとび・持久走運動を計画的に実施する。	3		<ul style="list-style-type: none"> 今年度のA判定児童数は、48名（16％：昨年12％）。 今年度の体力テストの結果を基に、体力向上プランを作成した。プランを基に、日々の体育科授業で実践していく必要がある。 中学校と連携して設定したサーキットトレーニングの方法について全職員で共通理解し、授業に取り入れている。 11・12月に持久走運動月間、1・2月になわとび運動月間を設定し、計画に沿って確実な実施に当たった。 ○ 持久走・なわとび月間での取組が確実になされ、成果が現れている。
	技能・能力	各種運動技能毎に達成カード等を用いて、個人目標をもたせながら継続的に取り組ませることを目指す。 年1回の体育実技研修実施を目指す。	体育指導を計画的に進めるとともに、体力向上プランを適切に実践することを通して、「長座体前屈」「反復横とび」「50m走」の能力を高める。 体育実技研修を実施し、指導力の向上に努める。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 「体力向上プランを生かした指導」に係る教師アンケートの結果によると67％の肯定的回答にとどまった上、4段階評価の評定4（よくあてはまる）については8％であったことから、プランの共通理解と適切な実施が課題である。 ○ 親の関わりや話などで、体力向上への児童の意欲も変わるのではないかな。
	健康教育	「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズム100％定着を目指す。 昼休みは係活動、その他の児童は全員外遊びを奨励する。 就寝時刻、 低学年21：00 中学年21：30 高学年22：00 を目指す。 毎次の手洗い、うがいの励行を目指す。 ハンカチ・ティッシュの所持100％を目指す。	「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に、一日の生活リズムを身に付けさせる。 毎月、朝食摂取や就寝時刻等の実態を把握し、健康な生活への意識付けを図る。 手洗い・うがい・身だしなみ等基本的な生活習慣を身に付けさせる。 健康生活週間における取組（さわやかチェック）及	3		<ul style="list-style-type: none"> 「保健指導の効果的な実施」に係る教師アンケートの結果から83％の肯定的回答が得られた。学級活動や朝の会での指導及び家庭への啓発を継続する。 12月末の「朝食摂取」に関する児童アンケートの結果からは99％、保護者アンケートの結果からは96％の肯定的回答が得られた。 同じく、「早寝・早起きの時間順守」に関する児童アンケートの結果からは86％、保護者アンケートの結果からは73％の肯定的回答が得られ、双方に若干のずれが見られた。 年度当初の歯科検診の結果を基に、保護者への啓発文書

			むし歯予防とむし歯治療率 <u>80%</u> 以上を目指す。	び保健だよりによる家庭への働きかけを継続する。 むし歯予防とむし歯治療の働きかけを推進する。		を発送したり、様々な機会に治療の達成状況を知らせたりしている。 ・ 1月末現在でのむし歯治療率は、71.2%であった。今年度は、80%を超える治療率を期待している。3月に、最終勧告を行う予定。
	食育		年1回程度の食育教育（栄養教諭とのTT）の実施を目指す。 給食時間の適切な運営を目指す。 搬入→配膳→食事→片付け→搬出の一連の流れをスムーズにする。 係の仕事内容を明確にし、係以外の児童は全員席について静かに待つことを徹底する。 給食 <u>残量0</u> を目指す。	食に関する指導全体計画に則した指導に努め、給食指導の充実を図る。 食物アレルギーによる事故を未然に防ぐ。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「食に関する指導の充実」に係る教師アンケートの結果から100%の肯定的回答が得られ、4段階評価の評定4（よくあてはまる）についても50%であった。 ・ 食物アレルギー対応について実践的な研修を実施し、緊急時の組織的な動きについて理解を深めた。 ・ 給食センターや関係職員の協力により、食物アレルギーの事故も現在起きていない。 ・ 学級活動や日々の給食指導によって食に関する実践的指導を行う一方で、年間3回設定された「弁当の日」の取組で家庭への啓発も継続している。 <p>○ 朝食は、最も重要であるので、次年度も全校児童がしっかりと食べて、元気に登校してほしい。</p>

<心豊かでたくましい人づくり>

〔4段階評価〕 4：大変よい 3：概ねよい 2：やや改善を要する 1：改善を要する

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己 評価	関係者 評価	結果の考察・分析 及び改善策等 【○ 関係者コメント】
【重点目標】 ○ 児童一人一人がよき町民となるよう、将来にわたって社会性を身に付ける教育を通して、『日常生活の力』の基礎を養う。						
心豊かでたくましい人づくり	人材育成	児童一人一人に木城小スタンダードを定着させる。	基本的な所作を身に付けた、信頼される人材を育成する。	木城小スタンダードを活用した指導を継続的にを行い、当たり前のことが当たり前にできるようにする。	3	<ul style="list-style-type: none"> 4月当初、学校における「知・徳・体」の約束をまとめた「木城小スタンダード」について全校児童を対象に一斉指導した。 〔木城小スタンダードの内容〕 「学び」の約束 学習用具 授業準備 話の聞き方 発表の仕方等 「生活」の約束 集団登校 『日々新』唱和 校内でのきまり 清掃 校外でのきまり等 「体育・給食」の約束 集団行動 身だしなみ 給食のきまり等 ○ 様々な体験活動を通して、地域の文化や人との関わりを学ぶことが大切である。地域のよさを知る児童を育成してほしい。
	教育環境	整理整頓を徹底する。	凡事徹底を通して、教育環境の基盤を整備する。	花いっぱい为学校、ごみのない教室や廊下・階段、帽子・靴・傘・衣類・机・椅子が整理整頓された学校環境づくりを推進する。 教室に児童の作品がたくさん掲示・展示された学校環境づくりを推進する。	3	<ul style="list-style-type: none"> 紙くずなどが教室の床に落ちたままになっている学級があった。 清掃時間のみでなく、移動・準備の時間にも意識して拾わせ、常に教室の学習環境を整えていく教師の意識の高まりが必要である。 ○ 校内の環境が整うことで、すべてにおいて向上していくと思われるので、特に清掃に力を入れてほしい。

<校長所見>

次年度の方向性についての校長の所見	<p>学校経営ビジョンを基に「学力向上」「心の教育」「体力向上」「心豊かでたくましい人づくり」について学校経営を進めてきた。年度当初の計画を学期ごとに評価し、改善できることは途中からでも変更し、実施に移してきた。</p> <p>特に、学力向上については、町の施策による学力向上サポーターの配置が効果的であり、弾力的な活用の下、習熟度別にきめ細かな指導を推進することができた。また、県の事業である重点支援校訪問を受け、児童が「分かる・できる」まで教える授業づくりを構想してきた。さらに、図書司書の配置による効果も児童の読書に関して質量共に高まったととらえている。</p> <p>徳育に関しては、児童の明るい元気なあいさつと、適切な言葉遣いについて、継続した指導の必要性を痛感した。また、いじめと認識すべき事案が発生したことについては、事実を真摯に受け止め、組織的な取組の下、今後も当該児童の交友関係を見守っていききたい。</p> <p>保健に関しては、昨年度に引き続き歯科衛生面でむし歯治療率が改善している。中学校の状況も踏まえつつ、今後も更に高い治療率を目指したい。</p> <p>家庭・地域社会に対しては、学校からの配付物を適時発行し、学校の様子を知らせてきた。安心メールも有効に活用してきた。</p> <p>次年度も、校長の学校経営ビジョンに連動したきめ細かい評価を行うことで、学校運営の充実を図り、学校経営の改善に努めたい。</p>
-------------------	---

